



平成30年4月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年3月9日

上場会社名 インспек株式会社
 コード番号 6656 URL <http://www.inspec21.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菅原 雅史
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 富岡 喜栄子

TEL 0187-54-1888

四半期報告書提出予定日 平成30年3月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年4月期第3四半期の連結業績(平成29年5月1日～平成30年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年4月期第3四半期	1,300	0.7	258		268		485	
29年4月期第3四半期	1,309	47.4	15		26		30	

(注) 包括利益 30年4月期第3四半期 540百万円 (%) 29年4月期第3四半期 49百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年4月期第3四半期	151.47	
29年4月期第3四半期	11.73	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年4月期第3四半期	2,956	1,150	30.4	273.30
29年4月期	2,490	1,203	32.3	296.67

(参考) 自己資本 30年4月期第3四半期 899百万円 29年4月期 805百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年4月期		0.00		0.00	0.00
30年4月期		0.00			
30年4月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年4月期の連結業績予想(平成29年5月1日～平成30年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,900	12.0	246		266		455		142.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、平成30年1月31日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用しております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年4月期3Q	3,292,069 株	29年4月期	2,713,600 株
期末自己株式数	30年4月期3Q	31 株	29年4月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年4月期3Q	3,202,739 株	29年4月期3Q	2,603,658 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年5月1日～平成30年1月31日）におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境が改善し、日経平均株価指数が26年ぶりに24,000円台に回復するなど回復基調が続いており、個人消費にも持ち直しの動きが見られております。一方、海外においては米国ダウ平均株価の史上最高値の更新が続くなど景気は拡大基調が続いており、欧州においても堅調な推移が見られます。

このような経営環境の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1,300百万円（前年同期比0.7%減）、営業損失は258百万円（前年同期は営業損失15百万円）、経常損失は268百万円（前年同期は経常損失26百万円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、連結子会社に係るのれんの減損処理を特別損失に計上したことなどにより485百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失30百万円）となりました。

なお、当社の連結子会社に係るのれんの減損処理につきましては、本日別途開示しております「のれんの減損処理（連結決算）並びに連結子会社株式の減損処理による特別損失（個別決算）の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①半導体パッケージ基板・精密基板検査装置関連事業（当社）

当第3四半期連結累計期間におきましては、当事業の主力製品でありますAVI（自動最終外観検査装置）及びAOI（プリント基板のパターン検査装置）の引合いや受注は引き続き堅調に推移しております。現在、当社が戦略的に取り組んでおりますロールtoロール型検査装置の受注を複数台獲得したこともあり、当第3四半期連結会計期間末における受注残高は493百万円となっております。また、当社は当事業年度を中期成長のための体制を強化する年度と位置付け、事業拡大に備えた先行投資（人員増加など）を行っております。

この結果、当事業の売上高は880百万円（前年同期比9.8%増）となり、セグメント損失は57百万円（前年同期はセグメント利益17百万円）となりました。

②精密基板製造装置関連事業（First EIE SA）

当第3四半期連結累計期間におきましては、当事業の主力製品でありますフォトリソ（基板のフィルム原版を印刷する装置）が売上を牽引しておりますが、工場移転により十分な営業活動が出来なかったこともあり、当第3四半期連結累計期間の売上高は当初計画を下回りました。しかしながら、工場移転により大型のフォトリソをはじめとする新製品が製造可能になるなど、生産能力は今後大幅にアップするものと見込んでおります。

また、First EIE SAの株式を平成29年8月2日付で追加取得したため、のれんが294百万円増加しております。そのため、追加取得時までののれん償却費相当額71百万円を一括して費用として計上しております。

この結果、当事業の売上高は404百万円（前年同期比15.5%減）となり、セグメント損失は101百万円（前年同期はセグメント利益17百万円）となりました。

③デジタルパソロジー関連機器事業（クラーロ株式会社）

当第3四半期連結累計期間におきましては、病理標本をデジタル画像化するWSI（Whole Slide Imaging）は、デジタル画像による病理検査を可能とする法整備を進めている途上であること及び保険収載の方針を見据え、新製品の開発に注力したことから当第3四半期連結累計期間の売上高は当初計画を下回りました。しかしながら、平成29年12月25日に開示いたしました「当社子会社の新製品のリリースに関するお知らせ」にありますように、当該新製品を主力とした受注活動を強化するための販売体制を整え、今後の新製品の高度医療関連機器開発に向けた体制を構築しております。

この結果、当事業の売上高は16百万円（前年同期比45.0%減）となり、セグメント損失は108百万円（前年同期はセグメント損失59百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産の部は、前連結会計年度末に比べ466百万円増加し、2,956百万円となりました。これは主に、現金及び預金412百万円の増加、受取手形及び売掛金217百万円の減少、仕掛品242百万円の増加及びのれん104百万円の減少等によるものであります。

負債の部では、前連結会計年度末に比べ519百万円増加し、1,806百万円となりました。これは主に、短期借入金204百万円の増加、1年内返済予定の長期借入金204百万円の減少、長期借入金53百万円の増加及び転換社債500百万円の増加によるものであります。

純資産の部では、前連結会計年度末に比べ53百万円減少し、1,150百万円となりました。これは主に、資本金284百万円の増加、資本剰余金284百万円の増加及び親会社株主に帰属する四半期純損失485百万円の計上によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年4月期の通期の業績につきましては、平成29年12月8日に公表いたしました業績予想を修正いたしました。詳細は本日（平成30年3月9日）公表の「のれんの減損処理（連結決算）並びに連結子会社株式の減損処理による特別損失（個別決算）の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が判断した見通しであり、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	775,728	1,188,039
受取手形及び売掛金	448,265	230,774
電子記録債権	5,702	7,560
商品及び製品	86,766	83,003
仕掛品	164,543	407,317
原材料及び貯蔵品	81,581	97,364
その他	34,239	89,288
貸倒引当金	△7,200	△588
流動資産合計	1,589,628	2,102,760
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	171,704	166,711
機械装置及び運搬具（純額）	25,817	82,363
土地	20,350	42,990
建設仮勘定	104,019	78,005
その他（純額）	33,755	35,619
有形固定資産合計	355,647	405,689
無形固定資産		
のれん	509,846	405,514
その他	19,166	17,813
無形固定資産合計	529,012	423,328
投資その他の資産	16,225	25,207
固定資産合計	900,886	854,225
資産合計	2,490,515	2,956,986
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	183,051	179,246
短期借入金	196,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	364,509	159,756
未払法人税等	50,091	12,829
製品保証引当金	32,802	27,878
賞与引当金	23,322	15,053
繰延税金負債	9,378	8,950
その他	91,909	92,185
流動負債合計	951,064	895,899
固定負債		
長期借入金	302,948	356,091
繰延税金負債	17,456	16,986
転換社債	—	500,000
資産除去債務	304	305
その他	15,376	37,505
固定負債合計	336,084	910,888
負債合計	1,287,149	1,806,787

（単位：千円）

	前連結会計年度 (平成29年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	537,828	822,327
資本剰余金	138,361	422,860
利益剰余金	174,583	△310,538
自己株式	—	△41
株主資本合計	850,772	934,608
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△45,736	△34,883
その他の包括利益累計額合計	△45,736	△34,883
新株予約権	44,463	57,817
非支配株主持分	353,865	192,655
純資産合計	1,203,365	1,150,198
負債純資産合計	2,490,515	2,956,986

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日）
売上高	1,309,752	1,300,808
売上原価	761,197	756,527
売上総利益	548,554	544,280
販売費及び一般管理費	564,308	802,954
営業損失（△）	△15,753	△258,673
営業外収益		
受取利息	479	19
補助金収入	11,092	6,108
貸倒引当金戻入額	—	3,600
その他	675	696
営業外収益合計	12,247	10,424
営業外費用		
支払利息	20,821	8,405
手形売却損	881	365
為替差損	788	5,760
株式交付費	630	4,606
その他	37	819
営業外費用合計	23,160	19,957
経常損失（△）	△26,666	△268,207
特別利益		
新株予約権戻入益	—	3,051
特別利益合計	—	3,051
特別損失		
固定資産除却損	0	889
事務所移転費用	—	3,912
賃貸借契約解約損	—	1,092
上場違約金	—	10,000
減損損失	—	274,828
特別損失合計	0	290,723
税金等調整前四半期純損失（△）	△26,666	△555,879
法人税、住民税及び事業税	13,021	4,761
法人税等調整額	4,722	△1,163
法人税等合計	17,743	3,598
四半期純損失（△）	△44,409	△559,477
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△13,860	△74,355
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△30,549	△485,121

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日）
四半期純損失（△）	△44,409	△559,477
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△5,424	15,429
その他の包括利益合計	△5,424	15,429
四半期包括利益	△49,833	△544,047
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△34,619	△470,381
非支配株主に係る四半期包括利益	△15,214	△73,666

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において新株予約権（第5回新株予約権、第8回新株予約権及び2017年ストック・オプション）の行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ284,499千円増加しております。この結果、当第3四半期連結累計期間末において資本金が822,327千円、資本剰余金が422,860千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年5月1日至平成29年1月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 ((注)1)	四半期連結 損益計算書 計上額 ((注)2)
	半導体パッケージ基板・精密基板検査装置関連事業	精密基板製造装置関連事業	デジタルパソロジー関連機器事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	801,993	478,537	29,222	1,309,752	—	1,309,752
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	801,993	478,537	29,222	1,309,752	—	1,309,752
セグメント損失(△)	17,327	17,049	△59,869	△25,492	9,738	△15,753

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額9,738千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成29年5月1日至平成30年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 ((注)1)	四半期連結 損益計算書 計上額 ((注)2)
	半導体パッケージ基板・精密基板検査装置関連事業	精密基板製造装置関連事業	デジタルパソロジー関連機器事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	880,408	404,337	16,061	1,300,808	—	1,300,808
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	880,408	404,337	16,061	1,300,808	—	1,300,808
セグメント損失(△)	△57,792	△101,217	△108,788	△267,799	9,125	△258,673

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額9,125千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間に、「精密基板製造装置関連事業」セグメントにおいて、当社の連結子会社であるFirst EIE SAについて、当初想定した利益計画を下回って推移していることから、今後の計画を見直した結果、のれんを回収可能価額まで減額し、当該減少額274百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。